

広がる。つながる。
笑顔のプロジェクト。

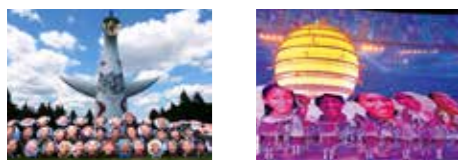
かおてん <かおづくりのプロジェクト>

家具づくりから生じる木の端材やハギレ、木の実などで子どもから大人まで、たくさんの「町のアーティスト」に「かお」をつくってもらうプロジェクトを進めています。



MERRY Project <喜びのプロジェクト>

「笑顔は世界共通のコミュニケーション」をテーマに、MERRYの輪を広げていくコミュニケーションアートプロジェクト。「あなたにとってMERRY(楽しいこと、幸せなとき、将来の夢など)とは、何ですか?」このシンプルな質問を世界中の人々に投げかけ、その笑顔とメッセージを集めています。



39 Project <感謝のプロジェクト>

「ありがとう」というたった5文字の言葉には、「自分を変える、人を変える、世界を変える力がある」をテーマに、ありがとうについて、いっしょに考え、行動しようというプロジェクト。



SEDIA SMILE
PROJECT
次へ。

働く人の笑顔。それに支えられて、日々平穏に暮らす人たちの笑顔。安心な世の中だからこそ、笑顔が生まれる。日々の仕事、さまざまな活動を通じて、笑顔の輪をもっと大きく広げていきます。

渡辺パイプ株式会社

〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10
浜離宮パークサイドプレイス6F
TEL.03-3549-3111 FAX.03-5565-6374
URL.http://www.sedia-system.co.jp



SEDIA SMILEBOOK

渡辺パイプCSR アクティブレポート

一杯の水。
一本のパイプ。
私の誇り。

「防災」から日々の
「安全」な
暮らしまで。



8 セディア
スマイルブック

SEDIA SMILE BOOK 8 2014年3月25日発行 発行:渡辺パイプ株式会社 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10 浜離宮パークサイドプレイス6F

Good Morning Life Line

今日も一日、
何ごともない日でありますように。

朝、静かに目を覚ます。また、新しい一日が始まる。
顔を洗う、歯を磨く。朝からシャワーという人もいる。
コップ一杯の水、温かいお茶、コーヒーが、
カラダ中に沁みわたり、一日のスタートを瑞々しく告げる。
そんな当たり前の日々の営みを支える、ライフライン、命の水。
一本のパイプが果たす役割も大きい。

今回のスマイルブックのテーマは「防災」「安全」。

一杯の水、一本のパイプに象徴される
ライフラインを支える現場、また、厳しい自然、
災害と向き合う誇り高いプロフェッショナルの仕事の最前線へ。
その緊張感、使命感を、達成感の笑顔と共にお届けします。

一杯の水。一本のパイプ。私の誇り。

BOU-SAI
AN-ZEN

誇りと責任。 最前線に人がいる。

BOU-SAI
AN-ZEN



103 大成機工株式会社 P.05



104 株式会社クボタ P.11



105 株式会社荏原製作所 P.17



106 全国管工事業協同組合連合会 P.23



107 ヤマトプロテック株式会社 P.29



108 農事組合法人クローバーズファーム P.31



109 進展工業株式会社 P.33



110 尾島 宏明様 P.35



111 公益財団法人セディア財団 P.37



暮らを守る。
笑顔を支える。

いつも、まさかのときも、

断水と闘う。

水を停めずに、水を止める。大成機工株式会社は、水道を断水させることなく管路の分岐や切り回しをする「不断水工法」の先駆者として知られている。ギネスブックにも掲載された世界最大口径の「不断水バルブ設置工法」は、既に『セディアスマイルブック』でも紹介した。今回、訪問したのは、災害時の復旧対策拠点となる「関西工事センター」。そこには、さまざまな緊急時に備え、日々、機材の点検整備、作業の訓練に汗を流す、まさに、「チーム大成機工」と呼べるメンバーの姿があった。

BOU-SAI AN-ZEN
SEDIA SMILE STORY

103

大成機工株式会社

水は生きている。

ライフラインの



人間に 例えれば大動脈

迎 えてくれたのは、「チーム大成機工」の扇の要ともいえる、センター長の中川晋三さん。がっしりとした体格、そして、「スマイル」が似合う頼もしいリーダーだ。しかし、当然のことながら技術的な話になると表情は厳しくなる。まず、大成機工の「不断水工法」について聞いてみた。

「水道は人間に例えれば、血管、大動脈のようなものだと考えています。まさにライフライン、生命線ですね。だから、どんな手術、つまり工事においても、血管を止めることは、極力、避けることが大切です。社会生活の命に関わりますから…。“命の水”を預かる仕事への覚悟。断水は、人々の日常生活はもちろん、医療機関など各方面に与える影響は計りしれないものがある。その説明に大きくなすく。

そして、人間と同じように「防災とは予防。日頃からの強いカラダづくりが大切」と強調する。大成機工では、地震や地盤沈下から水道管路を守る耐震性に優れた製品群、耐震管路の構築に役立つ新製品、新工法など、「防災・減災」に貢献する技術開発に積極的に取り組んでいる。



防災 Disaster prevention



さらに一方で、水道水のおいしさ、安全性の向上への研究開発にも力を注いでいるという。

「日本の水道水の品質は、世界最高レベルです。その水質維持に水道管も大きな役割を果たしています」。浄水場での水質管理が徹底していても、水道管に問題があれば、家庭の蛇口から出てくる水は安心して飲めない。「当社では、各種のリニューアル工法を駆使し、管路に溜まった錆コブの除去、管の更生、取り替えなどでも大きな成果をあげています」。血管、つまり水道管の流れをサラサラ、健康的にするということだ。こうした工事



でも「不断水工法」が活躍する。水の流れを停めないことはもちろん、水道水を濁らせることも許されない。世界に誇る先進技術だ。

反復訓練、応用力

話 は、緊急時の対応へと進む。「いつでも現場に急行できること。そのためには、日々の備え、機材の準備やメンテナンス、



点検整備は基本中の基本です」。まず、機材。そして、何より大切なのが、人の力、技術の向上だ。「口径の大小を問わず、まず、反復訓練です。そして、対応力、



応用力の向上も重要なテーマです」

現場の状況、水道管の種類も一定ではない。あらゆる事態を想定しておく必要がある。時に、見たこともない古い設備の破損に遭遇することもあるという。

「新製品への対応も大切です。設計、製造技術が最新のものでも、工事、補修技術が追いついていないと話になりませんからね。これは、工事担当者の責任感とプライドから出る言葉だ。新製品のテストには、特に神経を使うという。「事前準備、講習には万全を期します。その過程で、本体はいじれませんが、工事に必要な機械や部品を、工事部隊が自らの手で加工、調整することもあります」。設計、製造との連携による総合力の強化。その結果、緊急時の作業のスピードアップが可能になる。この加工、調整とは、人の勘と経験に負うところも大きい。ある種の職人技だ。



訓練 Training

外科手術。

緊迫した現場で

防 災、そして、減災に関しては、制御技術の機械化、自動化も進んでいる。「地震の揺れを感知したり、信号の指示により、自動的に水を止める緊急遮断弁があります。この設置にも、不断水工法が活用されています」。水道管、継手などの耐震性向上とともに、さらに安心度を高めるシステムだ。災害時、水道管が破損し、水の噴出が止まれば、浄水場の水が枯渇する。また、街が水道水で浸水するというような事態も発生しかねない。こうした緊急時は「止める」ことが命の水を守

ることになる。そして、上流の緊急遮断弁が作動した後、下流での復旧作業は、やはり人海戦術。結局、人だ。

本当は、緊急事態が生じないことがいちばん。「でも、災害だけでなく、老朽化や、さまざまなトラブルで、水道管が破損することがあります。こうした事態への対応も重要です。当然、24時間体制です」。いつ起きるか分からない。そして発生時は、どんな現場でも、常にスピードが求められる。「現場はどこも緊迫感が漂っていますから」。すぶ濡れになりながら、ときには、全身が水に浸りながら、その中で求められる冷静、正確、迅速な作業。まさに、ライフラインの緊急外科手

術。その万全を期すために「チーム大成機工」の訓練は、今日もつづく。「緊急事態」が発生しないことを願いながら…。



中川 晋三
工事部 関西工事センター センター長

不断水工法

かつて水道管路から枝管を取り付けるためには、工事時に断水させるしかなかった。しかし、断水が社会生活に与える影響は大きい。水道工事が盛んになる高

度成長期には、さまざまなトラブルの原因にもなった。そこで大成機工が1959年に開発したのが「不断水工法」。水を送りつづけながら、さまざまな工事を可能にする技術が進化し、今日も「命の水」が守られている。

災害復旧現場でも活躍

東日本大震災での復旧作業。「不断水工法」で行われた口径700mmの水道管の漏水補修作業(写真1)。写真2,3は、空気弁などの劣化、故障時に不可欠な補修弁の取り替え作業を「不断水補修弁取替工法」で行っている。2は一般道路。3は水管橋。



緊急
Emergency



森田 一隆さん(47歳・入社29年目)

九浦 渉次さん(58歳・入社15年目)

橋本 慎太郎さん(26歳・入社6年目)

塩谷 直樹さん
(22歳・入社4年目)



桂林 淳さん(38歳・入社17年目)

ライフラインのドクターたち。

チームワークで、正確、確実に。

—— 中川センター長のお話をお聞きしていて、緊急時はもちろん、皆さんの日々のお仕事の緊張感が、よく理解できました。

九浦 その緊張感は、技術の向上、作業のスピードアップのためにも必要ですが、いちばん優先しないといけないのは、安全の確保です。

塩谷 そのために、チームワークの大切さを叩きこまれています。基本的な挨拶からです。

森田 昔は「ケガをしたら覚える」とよくいわれました。今は、絶対にダメ。いちばんは安全。すべて、そこからです。

桂林 そして、正確、確実に。

橋本 そのために覚えることはたくさんあります。当然ですが、日々、勉強です。

—— 技術の習得、若い世代への継承という点からの取り組みは？

桂林 どんな仕事でも同じでしょうが、繰り返し経験して覚えるしかない。私もまだまだです。

森田 現場作業なので、臨機応変。自分で作業しないと分からない部分があります。その上で、聞いて、覚えるしかないということでしょうか。

塩谷 講習で学んだ通りに、現場でできないということは、しよっちゅうです。コンピューター操作のように数値通りにはいきません。

九浦 技術の継承のためには、数値化も大切です。先輩からは「見て覚えた」という話を聞か

されましたが、私たちの頃は、数字がありました。

失敗は許されない。だから大きい達成感。

—— でも、最後は、勤と経験なんですよ。

橋本 指、手の感覚。数値だけに頼れない場面がありますが、難しい…。

桂林 水が噴き出している状態で、時間との勝負。そして、安全、正確。先のことを考えながら、その先を考える。それは、マニュアルにはありません。失敗も許されません。

九浦 後戻りせずに、一発で止める。そのために、カラダとアタマをフル回転させる。

塩谷 技術も知識も経験も必要です。

—— いったみれば、ライフラインのドクター。責任感と同時に、やりがいもあるのでは…。

桂林 「終わった。よかった」という達成感を感じます。ただ、家族にその苦勞を話しても分かってもらえませんか(笑)

橋本 少しは、社会に貢献しているという感じはあります。

塩谷 私も現場に出るようになって、そう思うようになりました。逆に、災害や事故のニュースを見ると緊張するようになりました。

九浦 私は、すべて、チームの力に支えられている…ということですね。

社名/大成機工株式会社
本社/大阪府大阪市北区梅田1-1-3-2700
電話/06-6344-7771
設立/1948年3月
資本金/9,800万円
代表者/代表取締役社長 鈴木 仁

従業員/385名(平成26年1月現在)
業務内容/上下水道・ガス管用特殊継手類ならびに機械器具製造販売。各種不断水工法(不断水インサート工法、ヤノ・ストッパー工法、不断水穿孔工法)リニューアル工法(不断水補修弁取替工法、不断水割T字管取替工法、管更生工法、水槽防食工法)





熱、素材、 熟練の技。

匠の手から生まれる巨大な安心。

鑄

物メーカーとして1890年に創業した株式会社クボタ。1893年には水道用鑄鉄管の製造を開始し、日本で初めて国産化に成功。この鉄管製造への挑戦が、現在の事業領域「食料・水・環境」の柱のひとつ「水のクボタ」の礎になっている。

当時、日本国内では、コレラなどの伝染病の発生で多くの人たちが命を落していた。そうした状況を受け、国策として上水道の整備が急がれていたのだ。まさに、安全・安心、人々の命を守るために誕生したライフライン。それを支える鑄鉄管は、その後、120年にも及ぶ歴史の中で、めざましい進化を遂げる。

現在、主流となっているのが、強度、延性、耐久性に優れたダクタイル鉄管。「伸びに強い性質で、高い耐震性を備えています。また、100年の寿命を持つ最新のダクタイル鉄管も開発されています」と鉄管研究部の開発担当、西楨伸充課長。安全・安心な水質を確保するために、防食効果の高い塗装技術の開発も進んでいる。

そしてこのダクタイル鉄管が、地震などの災害時、“命の水がめ”に変身する製品がある。耐震・緊急用ダクタイル鉄管製貯

緊急時、上水道の配水管が、そのまま貯水槽になる。



耐震・緊急用貯水槽
DUCTILE IRON PIPE

水槽。仕組みはこうだ。平時は、上水道の配水管路と接続し、常時、新鮮な水が流れる状態になっている。それが、配水

池や配水管路が破壊された際、水の出入りを遮断して、そのまま巨大な緊急用貯水槽になるというわけだ。



管

の口径は最大で2,600mm。「必要な容量に合わせて連結が可能なので、100トン単位の飲料水の確保も可能になります」と西槇さんは胸を張る。消火用水としても使用可能。水道管同様地中に埋められているため、特別なスペースを必要としない。そして、その製造方法を聞いて驚いた。「円筒状の直管は機械化されていますが、両端を覆う“フタ”の部分は、ほぼ手づくりなんです」

それぞれに形が異なる異形管といわれる部分。直管の製造現場も一通り見学し、異形管の製造拠点、阪神工場尼崎事業所に向かった。「ビックリしないでくだ

さいね。みんな砂まみれ。炎が上がり、火花が飛び散る危険な現場ですから…」。案内役の異形管製造課

の小川和弘職長がいたずらっぽく、脅かすように説明してくれる。そして、特別な作業着を身にまとい、工場内へ。

「溶けた鉄は1,300℃以上あります。それを鑄型に



流し込む鑄込み作業は、ここの花形」。小川さんが入社した頃は、10年選手でないと任せてもらえなかった。見ているだけで緊張感が伝わってくる熟練作業だ。しかし、最近では、若い社員に担当させることも多いという。「もちろん、厳しく訓練します。一瞬の油断も禁物。ただ、そのやりがい、早く若手に感じさせてやりたいので



…」。小川さんは、やさしく、厳しく、作業を見守る。

鑄型づくりも手作業だ。砂を手で掻き集めて、叩いて叩いて形を決める。表面を整えるのも木型を用いる。「昔と同じ、アナログの鑄物工場です。

その巨大版。ただ、このスケールで製造しているのは世界にもあまり例がありません。仕事への誇り、自信。そして、小川さんの言葉からは、それをしっかりと次の世代に伝えたいという意気込み、使命感が感じられる。

オートメーション、コンピューターでは、作れない。



BOU-SAI AN-ZEN
SEDA SMILE STORY
104
耐震・緊急用
貯水槽
DUCTILE IRON PIPE

難燃素材のユニフォーム。 ポケットにはホイッスル。

小川さんが着ているのは難燃性のオレンジ色の作業着。工場内は場所により、火の粉、火花が容赦なく飛んでくる。そして、その胸ポケットからホイッスルが顔を覗かせている。マニュアルにはない小川さんの必需品だ。「気を抜いている若手がいたら、ピッピッ」。危険を伝えることにも使える。「イヤイヤとか、ダラダラは絶対ダメ!辛くても、与えられた仕事を、一生懸命やる。

すると仕事は楽しくなる」ときっぱり語る小川さん。異形管製造は、何年やっても見たことがない、まさに「異形」製造を求められる。「それもやりが



西槇 伸充 /パイプシステム事業部 鉄管研究部 課長(開発担当)



小川 和弘 /異形管製造課 職長

いのうち。世の中の人が求めるものならば…。その結果、ここを出ていく製品たちが、いろんなカタチで、場所で、命の水を守ってくれる。西槇さんも、「技術開発も重要ですが、結局こうした現場があるから、安全で安心な水をお届けできる。災害に備えることもできるんです」

今日も、見えないところで、「まさか」の地震災害に備える。

耐震・緊急用ダクタイル鉄管製貯水槽は、公園や学校の運動場など、公共施設の地下に埋められている。普段、私たちが直接、目にすることはない。それを製造する現代の匠たちの姿もスポットライトを浴びることは少ない。しかし、「防災」、日々の「安全」な暮らしは、こうした目立たない存在によって支えられている。

「世の中の役に立っているというより、やるべきことをやっている、という気持ちです」。そんな声も聞いた。情熱を内

に秘めた控え目なひたむきさ。それが、日本のものづくりの原点、「がんばろう!日本」の底力かもしれないと感じた。



匠の手から生まれる巨大な安心。 DUCTILE IRON PIPE



100トンの命の水。緊急時の「安心」が、またひとつ。

工場から、設置現場の技術者へのパトタッチ。

“100トンの命の水”を貯える耐震・緊急用ダクタイル鉄管製貯水槽が、今、まさに地中に設置されようとしている。場所は、神奈川県海老名市。埋設後は駐車場になる。口径2,600mm、長さは約20m。100トン余りの水を貯水できる。飲料水の必要量は1人1日3リットルとされている。この貯水槽で10,000人の3日分。消防用採水口も設けられている。ここに、またひとつ緊急時の「安心」が誕生する。しかし、日本全体に目をやると、まだまだ万全といえる状態には程遠い。今後、より多くの人たちの“命の水”を確保するために、設置数、備蓄量ともに、さらなる増強が求められる。

現場から。 フォトレポート

1人、1日、3リットルを3日分。
約10,000人の生活用水を確保する。



社名/株式会社クボタ
本社/大阪市浪速区敷津東一丁目2番47号
電話/ 06-6648-2111
東京本社/東京都中央区日本橋室町3-1-3
電話/ 03-3245-3111
創業/ 1890年

資本金/ 840億円
代表者/代表取締役会長兼社長 益本 康男
従業員/ 連結 31,436名(2013年3月31日現在)
単独 10,033名(2013年3月31日現在)
業務内容/「農業機械」「産業機械」「水システム」「環境システム」「都市・インフラ」領域での各種システム・製品の研究開発・製造及び販売

BOU-SAIAN-ZEN
SEDIA SMILE STORY

104

耐震・緊急用
貯水槽
DUCTILE IRON PIPE



口径4,200mmの排水力。

大きな力。小さな力。 水害を防ぐポンプの力。

軽量20kgの機動力。



Power of
the Pump

私たちの日々の暮らし、水のあるところにポンプあり。上水道から、下水道まで、水を動かす「心臓」として活躍している。そして、水害から人を、街を守る「排水」という仕事もある。その日本のポンプ技術をリードする、荏原製作所の富津工場では、ジェットエンジンのような巨大な設備から、その性能を凝縮したポータブルなコンパクトサイズまで、多種多様な特殊ポンプが製造されている。そこに一歩足を踏み入れると、今にも、ポンプたちの鼓動が聞こえてくるようだ。

BOU-SAI AN-ZEN
SEDIA SMILE STORY

105

株式会社荏原製作所

水を人間の敵にしたいくない。

—— 大小さまざまなポンプが、日本各地で水害から人々の暮らしを守っているとお聞きました。

荻原 まず、小型ポンプからお話しましょう。普段は小さい川、支川から本川に自然に水が流れています。しかし、本川が

増水すると支川に逆流することがある。その際、水門を閉め、ポンプで強制排水し、支川を氾濫から守ります。ただ、いつ、どんな場所で発生するか分からない。だから、非常時に急行できる機動力が求められるわけです。

中田 自動車が入れないような場所もあります。しかし、パワーは必要。軽量化と性能向上の闘いです。現在では、投光機や工具類も備えた「災害対策用排水

パッケージ」があります。

小宮 地形的に危険度の高い場所にはポンプ場が建設されます。その象徴的なものが、現在、私たちが更新工事に取り組んでいる新潟県の「新川河口排水機場ポンプ設備」です。口径4,200mmの巨大なポンプが6台あります。

高部 大きさは違っても、“水を人間の敵にしない”という役割は同じです。大型、小型の技術交流も活発に行っています。



この仕事は、地図に残る。現地の人たちの記憶に残る。

—— 災害対策用小型ポンプの開発は、いつ頃から始まったのですか？

中田 国の政策として配置が推進された1999年からです。普通免許で運転できる4トン車で運搬可能なサイズが求められました。ただ、当時は、排水力に弱点があり、複数のポンプを組み合わせる複雑な構造で、ホースの種類も多い。現場作業が煩雑でした。それを2年くらいかけて大幅にコンパクト化したのが「災害対策用排水パッケージ」です。最小パッケージは、2トン車で積載可能。ポンプ1台が約20kg。人力で、山中にも運べます。

荻原 防災はスピードが重要です。以前は、気象速報を見ながら、トラブルに備えて、会社で待機したこともありました。しかし、今は、扱いやすさ、操作性も



高まり、現地での対応力が格段に高まりました。つまり、防災力が高まっているということです。

—— 一方、口径4,200mmのポンプは、どんな力を持っているのでしょうか？

小宮 わかりやすくいいますと、6台で、一般的な小学校の25mプールの水を約1秒で排水します。まさに一瞬。1970年の建設当時は、東洋一と評されていました。それだけの力が求められます。新潟のこの地は日本有数の穀倉地帯なのですが、海拔0m以下の土地が多い。増水時は、機械排水が不可欠な土地なのです。供用が開始されてから約40年間、水害と闘い、豊かな農地を守ってきたポンプを、今、私たちが最新機と交換しているのです。

高部 海に面した河口にあるポンプなので、海水による腐食との闘いもあります。最先端の技術を投入していますが、40年前の技術者の知恵を受け継ぐ部分もあります。

大澤 入社当時、「われわれの仕事は地図に残る」と先輩から言われました。事実、国土地理院の地図に記されます。

技術はもちろん、そうした誇りも次の世代に伝えていきたいと思います。

荻原 小型ポンプの場合も、地元の関係者から、荻原のポンプのおかげで洪水被害にあわずにすんだ、というお話を聞くことがあります。そういう意味では、記憶に残る仕事でもあると自負しています。

中田 小型化技術は一定レベルに達しています。後は、都市水害対応も含め、どれだけ数多く配置できるかが課題です。

大澤 大型ポンプは老朽化施設の更新がテーマですね。国土強靱化の一翼を担う重要なプロジェクトです。

—— やるべきことは、まだまだありそうですね。さらなるポンプパワーに期待します。

高部 哲男
風水力プロジェクト
室長

大澤 博之
風水力プロジェクト
設計グループ長

小宮 真
ポンプ技術第一室
国内ポンプグループ長

中田 涉二郎
国内エンジニアリング室
技術グループ長

荻原 幸一
国内エンジニアリング室
技術グループ 副参事

荏原製作所のスマイル・ファクトリー

人間臭い最新鋭の工場から。

熱と誠の「ものづくり魂」。その創業以来の精神、心意気を今に受け継ぐ、荏原製作所、富津工場。稼働開始は2010年。水インフラ市場向けの特種、大型ポンプを生産する最新鋭の設備を備えている。しかし、製品の多くが異なる個性を持つ特注品ということもあるのだろうか、どことなく“人間臭い手づくり”の匂いが漂っている。工場内には、新製品だけでなく、日本全国から持ち込まれたメンテナンス中の製品も並んでいる。「現役で働いているポンプですから、万全の状態にして、とにかく早く現場に戻してやらないと…」その言葉からは、“効率”というよりは、“愛情”という感情が伝わってくる。そのためか、技術者たちの目は厳しさの中に、やさしさが感じられる。動きは、自然でしなやか、ムダがない。一転して、休憩時間にカメラを向けると、「モデルじゃないですから…」と照れながら、素晴らしい笑顔を見せてくれた。

人間臭い最新鋭の工場。その理由はこんなところにもあるのかもしれない。毎年、新入社員が100日間受ける研修「ポンプ道場」。1日1,500回のハンマー叩きから始まり、組み立て段階では100分の1mm単位の部品のヤスリがけに神経を擦り減らす。「ものづくり魂」を体に染み込ませる研修。ここで働く技術者は、みんながその経験を経て、自信と誇りを胸に、個性豊かなポンプたちと向き合っているのだ。「日々、部品との対話です」。なるほど。そんな雰囲気包まれた工場、いや故郷から旅立つ製品たちは幸せ者だ。まさに、ここは、スマイル・ファクトリーだと実感した。



社名/株式会社荏原製作所
本社/東京都大田区羽田旭町11-1
電話/03-3743-6111
創業/1912年11月 設立/1920年5月

資本金/686億円
代表者/代表取締役社長 前田 東一
従業員/連結 15,170名(2013年3月末現在)
単体 4,109名(2013年3月末現在)

業務内容/風水力機械カンパニー(風水力事業):ポンプ、コンプレッサ、タービン、冷熱機械、送風機。環境事業カンパニー(環境事業):都市ごみ焼却プラント、産業廃棄物焼却プラント、水処理プラント。精密・電子事業カンパニー(精密・電子事業):真空ポンプ、CMP装置、めっき装置、排ガス処理装置



口径4,200mmの排水力。
Power of the Pump
軽量20kgの機動力。
BOU-SAI AN-ZEN
SEDA SMILE STORY

105



SMILE FACTORY

一刻も早く。 日々、地道に。



全国各地、
地元をいちばん
知っている。

給水装置工事業者の全国組織、全国管工事業協同組合連合会(全管連)。
地域に密着し、水道というライフラインを支える地元の事業者として、その役割は、
日々のトラブルへの対応から、災害復旧まで、多岐にわたる。
大澤規郎会長の話は、「防災」への確かな取り組みと今後への課題。
さらに、明日の「安全」を守り続ける未来へのビジョンにも及んだ。

“水道のプロ”が考える 「防災」「安全」の基本。

—— 日々の「防災」と「安全」。全管連は、水道事業者の団体として、まさにその最前線におられます。
大澤 身近な「街の水道屋」、そして、その全国組織としての総合力を活かして水道の安全、防災力の向上に取り組んでい

ます。特に、近年、東日本大震災など、考えもしなかった自然災害が発生しています。私たちもさまざまな復旧作業に関わり、多くの経験をしました。そこで痛感したことは、「起きてからどうするのではなく、起きる前にどうするか」ということです。

—— 備えあれば憂いなし…。
大澤 そうですね。まず、水道の耐震化。東日本大震災の被災地でもいわゆる耐震管の被害は報告されていません。接合部分が抜けなかったんですね。その効果、地震に耐える力が実証されたわけです。これは、阪神・淡路大震災以降、国や水道事業者の取り組みが功を奏したといえます。しかし現状、基幹管路の耐震化率は全国で約33%程度です。こ



の数字を上げることが急務です。

—— 「国土強靱化計画」とも関連する国家プロジェクトですね。
大澤 厚生労働省が設立した「水道耐震管プロジェクト」には全管連も参画しています。また、具体的な施策として「南海トラフ巨大地震」による被害が想定される地域の耐震化事業への補助率アップを要求し、予算化されました。現場を知っている“水道のプロ”の意見には説得力があります。国や社会に積極的に発言していくことも、私たちの使命だと思っています。

—— 水道管の耐震化という問題に、一般の人たちの関心は低いですね。
大澤 建物の耐震化は、よく話題になります。一方、地中に敷設されている水道管は目に見えませんがね。被害状況もニュース映像では伝わりません。もちろん、災害が発生しないことがいちばんです。ただ、万が一の災害時にライフラインである水道を止めない。「減災」という観点からも、重要な

問題です。復旧作業全体のスピードアップにもつながります。



起きてからどうするのではなく、

を飲める。この“当たり前”のために、私たちの日々の仕事があります。地域の水道事業者は、夜間休日も当番制で待機しています。地元の皆さまから信頼していただくこと。日頃のコミュニケーションも大事です。また、日本の水道は、浄水場から家庭の蛇口に届くまでの漏水率が低い。世界トップレベルです。その維持管理にも貢献しているという自負があります。こうした日常の仕事の積み重ねが、大きな意味での「防災」にもつながっているのです。

使用している管材などの資材情報を整理、公開して、全国レベルで共有しておくことです。大切な「平時の備え」のひとつです。
—— マニュアルの整備にも力を注いでおられます。
大澤 「地震等緊急時における応急工事復旧マニュアル」です。東日本大震災の体験を踏まえ、2013年に改訂しました。技術面に加えて、初動体制における

通信手段の確保としてフェイスブック導入への体制を整備するなど、時代に即した、よりきめ細かな内容になっています。渡辺パイプさんとも協定を結んでいただいている資材やレンタル機材の確保・調達のための協定締結事例集も見直し、ネットワーク強化を全国の所属団体に推奨しています。
—— まさに、全管連の総合力が活かされているんですね。
大澤 一方で災害時だけでなく、毎日、安心して安全な水



一刻も早く。
日々、地道に。
BOU-SAI AN-ZEN SEDIA SMILE STORY 106

見えない水道管を見る、 地域精通力。

—— 災害復旧には、「街の水道屋」さんの役割が不可欠ですね。
大澤 それぞれの地域で育てていただいた私たちの仲間は、その地域の状況をいちばん知っています。どこに、どのように、何が設置されているのかをきちんと把握している。作業の優先順位も瞬時に判断できます。先ほど「地中の水道管は見えない」というお話をしました。しか

し、それが見えているのが地域の事業者、私たち「街の水道屋」です。災害時は、この「地域精通力」が大きな力を発揮します。
—— 「地域精通力」。いい言葉です。
大澤 その力と外部からの応援部隊の力。状況に合わせて、事前に綿密に打ち合わせを行い、ふたつのギアを効率的に噛み合わせれば百人力です。応急復旧

も、本復旧も機動力が一気にアップします。東日本大震災の復旧作業現場には、応援部隊として私も何度も足を運びました。そうした中で痛感した大きな課題があります。それは、管材の規格の統一です。現在は、各市町村などの水道事業者によって異なっています。必要資材が全国一律なら、対応が素早くできます。私たちは、少なくとも配水管から水道メーターまでは統一すべきだと考えています。現状の対策としては、各水道事業者が

起きる前にどうするのか。

若い世代が自信と誇りを持てる仕事。

—— 技術力の維持、向上も不可欠なテーマです。

大澤 その通りです。将来を考えると、若い世代の育成、技術の継承も優先課題になります。例えば、国家資格をより厳密に整備し、「技術者」としての地位を高めていく。それに伴う待遇改善など、

自信と誇りを持って働ける労働環境を整備することも重要です。日本中で頑張っている若者たちの情熱に応えないと…。

—— この仕事には夢や希望がある。
大澤 満23歳以下の「選手」が参加する技能五輪には、配管職種があります。国際大会への道もある。いい目標です。

また、発展途上国への技術援助など、国際交流にも力を注いでいきたい。私自身も、地元自治体の市長と水道局関係者と、2年前、ラオスを訪問しました。その後、向こうの水道事業関係者が来日するなど連携が深まりつつあります。
—— 日本の水道技術は世界最高水



さいたま市とビエンチャン市(ラオス)との水道事業に関する技術協力を継続する覚書調印式 (左から清水さいたま市長、大澤会長、大熊理事)

チャンパー小学校にクリスマスプレゼントとしてボールペン500本を贈呈

一刻も早く、日々地道に。

BOU-SAI AN-ZEN SEDIA SMILE STORY 106

準ですね。

大澤 そうです。昨年、全管連の青年部のメンバーを現地に派遣しました。こうした活動を通じて、若い世代が新たな可能性を見つけてくれれば…。現在も、浄水場や配管技術の援助はあります。ただ、漏水したら直せない。ここが、私たちの出番です。「街の水道屋」の維持管理技術は“輸出”できると思っています。クールジャパンの立派なコンテンツのひとつです(笑)。

—— 活躍の場がどんどん広がりそうですね。

大澤 「防災・減災」という観点から、全管連では、特別な事態に備える機能と

技術を持った「消防レスキュー隊」のような組織を持つ必要があると考えています。私の地元の組合では、各社から選抜した1組10人の精鋭10チームを養成しています。

—— まさに、専門化、国際化、高度化の推進ですね。

大澤 これからの水道事業は、ABCサービス。アフター、ピフォア、コンサルティング。特に、平時からの維持管理、ピフォアがポイントです。自然災害に備えるだけでなく、マンションや団地の老朽化に対応するという役割もあります。さらに、電気、建築、住宅設備、また、大きな管を扱

うためには土木の技術や知識も必要になります。技術の境目がなくなってきました。全管連では、こうした幅広い分野の研修システムも整備して、将来にわたって、その責任を果たしていく覚悟です。

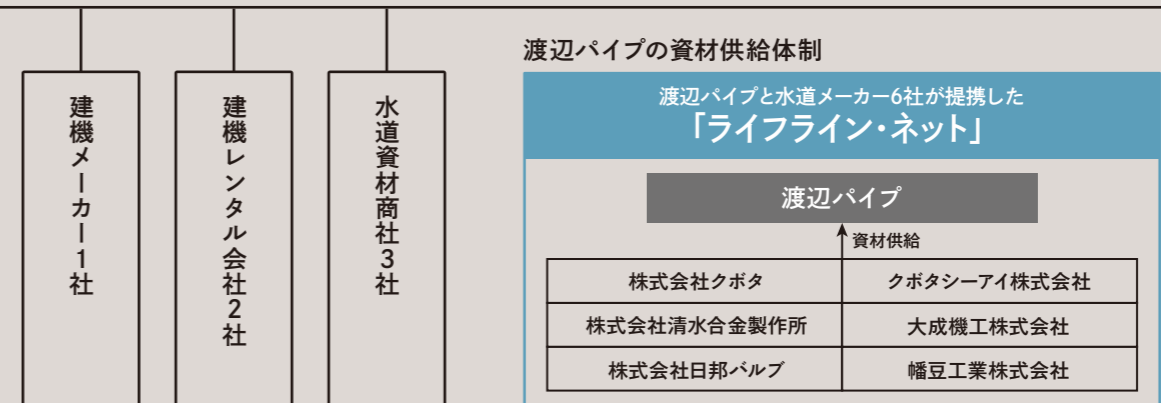


大澤 規郎(おおさわ きろう)氏
全国管工事業協同組合連合会会長/さいたま市管工事業協同組合理事長/埼玉県管工事業協同組合連合会会長
取材・撮影協力:富士管工株式会社

日本のライフラインを守る緊急時の全国災害支援体制

『災害時における復旧活動の応援協力に係わる覚書』を締結

全国管工事業協同組合連合会



※2009年12月に渡辺パイプをはじめ、6社が協定を締結

※渡辺パイプは緊急時の資材供給システム『ライフライン・ネット』を構築



107

ヤマトプロテック株式会社

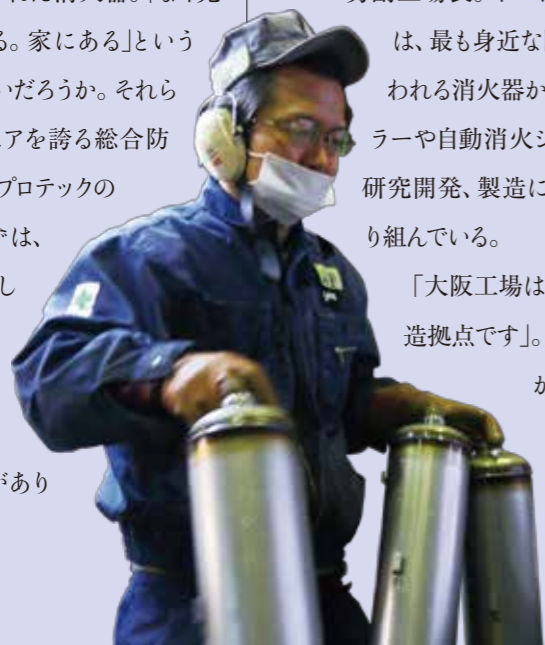


「火の用心」の まず、 そして万が一に備える。



生命と財産を火災から守る消火器。 いざというとき、トラブルは許されない。

「Y P」のマーク、「YAMATO」と記された消火器。「よく見かける。家にある」という人も多いのではないだろうか。それらは、国内トップシェアを誇る総合防災メーカー、ヤマトプロテックの製品たちだ。「まずは、火の用心です。そして、万が一の出火の際、被害を最小限に抑えるために当社の技術があり



ます」。そう語るのは大阪工場の谷澤寿男副工場長。ヤマトプロテックでは、最も身近な防災器具といわれる消火器から、スプリンクラーや自動消火システムまでの研究開発、製造にトータルに取り組んでいる。

「大阪工場は、消火器の製造拠点です。説明を聞きながら工場内を案内してもらいます。製造工

程は、消火器の胴体部分を一枚の鉄板から加工することから始まる。「主要部材は自社生産。万が一の際、品質に1%のミスも許されませんから」。日々、使用するものではない。だからこそ、非常時にトラブルが生じたら元も子もない。完成品の検査も厳重に、繰り返し行われている。

そして、私たち使う側にも、注意してほしいことがあるという。「一度、設置されている消火器の製造年、使用期限を確認してください」。かつては、こうした表示が義務付けられていなかった。そのため、経年劣化によって、使用時、事故が起きることもあった。このいずれの表示もない消火器は、既に耐用年数が超えていると考え

た方がいいとのこと。標準的な使用期間は10年。「当然のことですが、“あるから安心”じゃダメなんです。いざというとき、役割を果たさないと意味がない。消火器は“お守り”じゃありませんから」。その言葉に思わずうなずく。

現在、ヤマトプロテックは、法改正によって、比較的小規模な社会福祉施設などにも設置が義務付けられた水道連結型のス

プリンクラー設備の普及にも力を入れている。大型装置を必要としない水道連結型の設置には、給水装置工事事業者との連携が必要になる。ライフラインである水道は、こうした場面でも、人の命を守ることになる。「防災」は、あらゆる技術の総合力だ。消防法への対応、それ以上の性能向上。関連事業者との技術協力、関係強化。ヤマトプロテックの取り組みはつづく。



「水」と「消火」は切っても切れない関係。「渡辺パイプさんとも連携を深めて、水道連結型のスプリンクラー設備を普及させたい」と語る谷澤副工場長。

社名/ヤマトプロテック株式会社
本社/東京都港区白金台5-17-2
本店/大阪市東成区深江北2-1-10
創業/1918年1月
資本金/9,900万円
代表者/代表取締役社長 乾 雅俊
従業員/302名(2013年1月1日現在)
業務内容/消火装置・火災警報装置・避難誘導装置・公害防炎関係・管工事・電気工事等の設計・施工
監理及び維持管理・建築設計、施工及び監理・消火器具機械・消火剤の製造及び販売・防犯設備・その他関連する付帯事業一切



108

農事組合法人
クローバーズファーム



震災復興の中で見えてきた、 明日を耕す農業。



安全、安心。 そして、安定経営。

さらにその先にある、明日の農業の理想像。

2 013年3月に完成したコンピューターによって環境制御された大規模グリーンハウス。

中には、栽培するトマトを愛おしく見つめ、作業を進める若者たちの姿がある。仙台市若林区。東日本大震災の津波被害を受けるまでは稲作中心の田んぼだった。

「塩害もありました。経営的なこと、将来の後継者のことも考えました」。その結果、元に戻すのではなく、新しい形の農業経営を目指そうと、4軒の農家で農事組合法人クローバーズファームを立ち上げた。そのメンバーの一人、専務理事の細谷滋紀さんの話はつづく。「機械はもちろん、クワひとつないところからのスタートでした」。そうした逆境の中から、新しい組織で、行政の支援も受けながら、最新のトマト栽培のハウスを導入した。

「津波によって海岸沿いの防風林も流されました。気候変化により、最近では雪も多くなった。作物の立場になって、いい生育環境を作ってやるのが私たちの仕事です」と細谷さん。12月のこの日も外気温は日中でも2℃。暴風警報が発令されていた。日々、

自然と向き合う農家にとっての「防災」とは、作物を厳しい自然から守ってやることだ。

「人とのお会い、つながりにも助けられています。研修生も受け入れ、社員になった子もいます」。その一人に聞いてみた。「地域密着の農業で復興の役に立てる喜び、学びながら仕事ができるやりがいがいっぱいで



「渡辺パイプさんは、設備だけでなく、いろんな情報を届けてくれるのがありがたい」と細谷さん。そして、「これからの農業は“情報”も肥料です」

す」。毎日の仕事は楽しくて仕方ないという。クローバーズファームは、作物だけでなく、次の世代も育てている。



若者の笑顔と素人の発想で、農場を交流の場に。

細 谷さんは、亡くなった義父の後を継いで、大震災の前年に就農した。だから、「地域の先輩たちや年下の“師匠”たちに教えられる毎日です」と笑う。堆肥を使い、化成肥料に頼らない循環型農業にもこだわっている。さらに、「もっと新しい農業を目指したい」と

夢を語る。理想は、消費者とも一緒になって、育て、収穫する。味わう。農場が交流の場となるような農業だ。「私はド素人ですから、いろんなこと、思いつくんです」。そして「小学生の息子が農業をやりたいと言いつつ、そんな環境を作りたい」と目を輝かせた。

自然災害にも、時代の変化にも負けない、夢のある強い農業に期待したい。



法人名/農事組合法人クローバーズファーム
住所/宮城県仙台市若林区荒井字笹屋敷165-1
電話/022-288-5684
設立/2012年4月
代表者/代表理事 菊地 柳秀
業務内容/農産物の生産及び販売ほか



「緊急時」と「もみがら」、その接点になるアイデア。

米どころ・新潟で廃棄物になっていた「もみがら」が、放射性物質も吸着する。



「偶然と失敗の中から生まれた製品たちです」。進展工業の創業者である長谷川弘相談役は、少し照れながらも、自信たっぷりにそう語る。本業は設備工事。その偶然から生まれた製品第1号は、河川などへのオイル流出事故の際、油を回収する「もみがら炭オイル吸着材・オイルワイパー」だ。もともと、ごみ焼却施設の工事に関わっていた関係から、生ごみを炭化する技術を発案した。それを、もみがらに応用しようと思いつく。研究を重ねた結果、炭化したもみがらは水に浮き、油だけを吸着することが分かったのだ。

さらに、次の製品は、失敗の中から生まれる。研究の中で加工作業に失敗したもみがら炭を表面に灯油が浮かぶ水の入ったバケツに捨てた。すると、水をはじき、浮くはずのもみがら炭が沈んでいく。「驚きました。



水も油も吸着する性質を持っていたのです」このもみがら炭は、交通事故の現場の

復旧作業にも活躍している。その名も「ロードワイパー」。ガソリンやオイルから、不凍液、ウインドウォッシャー液まで、まとめて吸着する。自然素材なので静電気に

放射性物質、セシウムの吸着材としての実用化も進んでいる。「特別、災害対策にこだわったわけではないのですが、求められる機能を追求していたらこうなりました。



よる引火という2次災害の心配もない。「機械メーカーの会社員時代、社長から、我々はモノではなく、機能を買っていただくんだ、と繰り返し言われました」と長谷川相談役。このお客様、社会に求められる「機能」を追求する姿勢が、こうした新製品の開発の原点にある。

た」。長谷川相談役は、新たな可能性の追求、研究開発に没頭する日々だ。「本業をおろそかにせず、世の中に役立つ、考えるモノづくりを進めていきたい」。経営のバトンを渡されたご子息、長谷川豊之社長にも、また違うアイデアがあるような気がした。



設備工事を通して渡辺パイプとのお付き合いは長い。災害時に役立つ非常用ポケットトイレ「グリーンマナー」は、渡辺パイプ本社にも備蓄されている。

社員にとまどいはなかったのだろうか。「こんな会社、他にないでしょ。私らは設備工事屋であり炭焼き職人です」と、アイデア創業者の挑戦を楽しんでいるようだ。消臭効果も持つもみがら炭は、非常用トイレにも活用されている。一方で、



社名/進展工業株式会社
本社/新潟県新潟市西区寺地670番地7
電話/025-267-3762
設立/1980年11月
資本金/2,000万円
代表者/代表取締役 長谷川 豊之

従業員/20名
業務内容/空調衛生設備の設計・施工、床暖房設備の施工、冷水機保守・分解整備、ボイラ缶検・保守、上下水道設備整備工事、各種ポンプ・送風機整備工事、ごみ焼却施設整備工事・常駐運営管理、床暖房畳床の設計開発・製造、新製品の開発



日本有数の突風地帯で、農業をつづける心意気。

先祖代々、みんなが知恵を絞ってきた。今の時代だからこそ、やれることがある。

「あ」と1時間、なんとか、耐えてくれないか……。2013年10月16日早朝の岡山県津山市、台風26号が通過する中、前年秋に、アスパラ栽培用のハウスを導入した尾島宏明さんは、祈るような気持ちだったという。しかし、背後の那岐山から吹きおろすこの地特有の局地風、広戸風により、ハウスは大きな被害を受けた。

「ふだんは、ピューピュー

と吹く風が、この時は、風の塊がドカンと落ちてくるという感じでした」と尾島さん。アスパラの栽培を担当する木元さんは、傷ついたハウスの姿を見て、「涙がこぼれました」と当時を振り返る。ただ、ひるんではられない。尾島さんは、兼業農家から専業に転身し、

主力である水稲、黒大豆に加えて、収益性を考え、アスパラ、白ネギ栽培に挑戦する中での出来事だった。

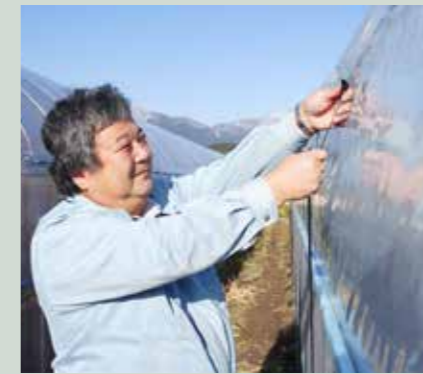
「幸い、渡辺パイプさんの3年補償ハウスを提案していただいていたので、すぐに完全補修できました。本当に助かった。

農家が自然に負けちゃダメ。めげずにやり直そうと決意しました」。重みのある言葉だ。そして、農業と自然の闘いについてこう



語る。「この地には、四国沖を通る台風が毎年やってきます。日本有数の突風地帯です。でも、先祖代々、知恵を絞って田畑を守ってきた。私たちも、新しい知恵を絞らないと……。そのひとつの取り組みとして、ハウスを導入した。「台風だけでなく、真夏の日差しや病気、害虫被害を防いでやることも大切ですから……」

白ネギ栽培では、岡山県で唯一、下仁田系の太い白ネギ「味パワー」の栽培に取り組んでいる。伝統へのこだわりを大切にしながらも、市場動向に、しっかりと目が向いているのだ。話を聞いていて、尾島さんの取り組みには、会社員時代の勘や経験、ビジネスセンスが活かしているのだと感じた。



「水稲もコシヒカリなどのブランド米にこだわる農家が多いのですが、気候の変化にも対応して、時代に適した栽培品種を選ぶべきだと考えています。品種によって作業効率も異なる。手間と収益のバランス。こうしたところへの目の付けどころも鋭い。これからは、そうでなければ生き残れない。



そして、「備えあれば、憂いなし。農業は、あらゆることに、どう備えるかがすべてです」。農業だけじゃない。「防災」の原点は、すべてこの言葉に集約される。



「ありがとう！」3年補償ハウスを提案してくれた渡辺パイプの担当者に、尾島さんは、心からそういいたいと言います。そして、「心強いパートナーとして、これからもよろしく！」

尾島 宏明様
住所 / 岡山県津山市新野東644
作物銘柄 / 水稲、黒大豆、アスパラ、白ネギほか

BOU-SAI AN-ZEN
SEDIA SMILE STORY

110

岡山県津山市 尾島様



火山・噴火を学ぶ。 大自然の力を知る。

教室は
浅間山

恵まれた大自然の中で、さまざまな取り組みを通して健康で豊かな社会づくりに役立つことを目的に設立された「セディア財団」。その活動の一環として、浅間山山麓周辺に住む子どもたちを対象に体験型セミナー「浅間山火山を学ぼう」を開催した。講師は、火山学の第一人者である東京大学名誉教授、荒牧重雄先生。天明3年(1783年)の大噴火の話を中心に、火山が持つ巨大なエネルギー、その歴史の一端を分かりやすく学んだ。それはそのまま「防災」「安全」というテーマにもつながる内容だった。



200年前の天明の大噴火は、 火山にとっては、つい最近の出来事。

浅間山山麓からは、山頂の姿が見えないあいにくの天候。しかし、寒さに負けず幼児から小中学生、その保護者など27名が参加した。まず、群馬県嬭恋村「鬼押し出し」に移動し、荒牧先生の話聞く。皆さん、近くにお住まいだから浅間山は日常風景ですね。しかし、この山は生きている火山です。今日は、天明3年の大噴火の歴史を中心に、少し火山学的なお話もしたいと思います。この「鬼押し出し」のゴロゴロとした溶岩も、天明の大噴火の際に山頂から流れてきたものです。目に見える表面はゴツゴツ、デコボコしていますが、この下は岩の塊になっています。おそらく秒速40mくらいのスピードで流れてきたのでしょう。あくまでも想像ですが…。私は見ていませんからね(笑)

古文書を読み解き、現状を見ながら想像することも研究のひとつなのです。ただ、火山の寿命は5万年から10万年。浅間山も地層を調べると数万年前から活動していることが分かります。200年前の天明の大噴火は、火山にとっては、つい



最近の出来事なんですね。今日は、皆さんも、何万年という時の流れを感じ、いろいろ想像しながら学んでください。



世界の火山学者が 日本の浅間山に興味を持つ理由。

一方で、火山観測の精度は高まり、各種の計測器や全地球測位システム(GPS)などにより、山体の膨らみや動きをミリ単位で計測し、噴火の前兆を見逃さない態勢が整えられている。しかし、200年前に、そんなシステムはない。一行は、嬭恋村別荘地の大岩石を見学し、当時、大きな被害を受けた鎌原へと向かう。大噴火は今の暦で8月5日、最初の噴火は5月9日という記録が残っています。初期の噴火でも軽井沢まで軽石や火山灰が吹き上げられたといいます。そして、運命のときは、8月5日午前10時頃。その瞬間、江戸で



障子が震え、京都でも爆発音が聞こえたらしい。すごいエネルギーです。噴火の角度から、今の群馬県側に火砕流、岩

屑なだれが押し寄せ、山頂から約13kmにある当時の鎌原村は壊滅的な被害を受けることになります。人口570人中、生存者は93人でした。鎌原村を襲ったのは、粉体流という特殊な状態であったと考えられます。付近の土石を巻き込みながら雪なだれのような状態で斜面を猛スピードで流れたのです。これは火山学的に世界でも珍しい現象です。しかも、浅間山は中型の火山でありながら、複雑な成長史を持っています。数万年の間に、いろんな種類の噴火があったのです。



火山・噴火のメカニズムを正しく知り、 冷静に共生していくことが大切。

鎌原村の高台には、難をまぬがれた鎌原観音堂が残っている。お堂に続く石段は15段。それが、1979年の発掘調査で、もともとは、50段あったことがわかった。当時の地面は約6m下にあったのだ。この調査には荒牧先生も参加している。

生活道具などと一緒に、この石段で、逃げ遅れたお二人の遺体も見発見されました。調べた結果、中年の女性とその背に背負われたおばあさんでした。おばあさんは頭巾のようなものを被っていた形跡がありました。真夏のことでですから防寒ではなく、頭を守るためのものだったのでしょう。最初の噴火から3ヵ月が経過していますから、そうした備えはされていたのですね。ただ、残念ながらもう少しのところで火砕流に飲み込まれてしまった。悲しい歴史ですが、その後、この村の生存者は、幕府の支援が届かないため、周辺

の村落の有力者の援助により、懸命に復興したという歴史もあります。火山学



ではありませんが、そうした話も付け加えておきます。火山は、景観や温泉など、私たちに多くの恩恵を与えてくれています。ただ災害を引き起こすこともあります。私たちは、そのメカニズムを正しく知り、知識を備えとしながら冷静に共生していくことが大切なのです。

鎌原観音堂周辺にある石碑の由来なども例に取り、噴火当時の様子の分かりやすい説明がつづいた。そして、参

加者は、浅間山大噴火の歴史を伝える孺恋郷土資料館を見学し、この日のセミナーは終了した。



経験や歴史を、 次の世代に伝えるという「防災」。

気象庁の火山情報によると、現在の浅間山は、静穏な活動期とされる「レベル1」。火口より4kmは立ち入り禁止になっているが、あまり心配する必要はない。ただ、明治後半から昭和30年代までその活動は活発だった。13歳のとき、大きな噴火を経験したという72歳の男性は、ちょうどその頃のお孫さんと参加した。「やはり、次の世代にきちんと伝えておかないと…」お孫さんも「いつも話は聞いているけど、今日はより詳しく勉強できた」と資料館の展示に見入っていた。家から見る浅間山が大好きという中学生は「もっと知りたい。先生の話はおもしろかった」とニコリ。浅間山は地元の誇りでもある。「浅間山の歴史を、学校で友だちにも教えてあげたい」としっかりメモを取る姿もあった。



災害の経験や歴史を次の世代に伝えること、学ばせてあげることも大切な「防災」だ。東日本大震災で、岩手県釜石市の小中学生ほぼ全員約3千人が津波から避難した「釜石の奇跡」の話を思い起こした。そして、荒牧先生は「浅間山は、火山

学習、自然体験の絶好の教室なんです。まず何より、学ぶことは楽しい!ということ子どもたちに伝えたい。氷点下の中、笑顔を絶やすことなく、冗談も交えながら、子どもたちの質問にも丁寧に答える先生の姿が印象的だった。



名称/公益財団法人セディア財団
所在地/東京都中央区築地5丁目6番10号 浜離宮パークサイドプレイス6F
電話/03-3549-3090
設立/2013年4月1日(同年8月22日付で公益財団法人に認定)
理事長/渡辺 元
事業目的/自然環境の源である水の大切さから環境保護を学び、恵まれた大自然の中での自然体験・野外活動及びスポーツを通じて健康で活力に満ちた心身ともに豊かな人間を育てることで、時代を担う青少年の育成、高齢者の生涯現役の持続、障害者の自立支援を図り、健康で豊かな社会の構築に寄与することを目的とする。



荒牧 重雄先生
東京大学名誉教授/山梨県環境科学研究所所長
1930年東京生まれ。東京大学理学部地質学科卒。57年よりペンシルバニア州立大学に留学。以後、ペンシルバニア州立大学客員研究員、東京大学地震研究所教授、北海道大学教授、日本大学教授、日本火山学会会長、国際火山学会会長などを歴任。国内外の噴火・火山災害の調査研究を行う。73年日本地質学会賞、08年日本火山学会賞、04年防災功労者総理大臣表彰などを受賞。

一杯の水。一本のパイプ。私たちの誇り。
最前線から伝えたい、私たちのメッセージ。

BOU-SAI
AN-ZEN

腕次第で製品の良し悪しが決まる。
しんどいけど、**面白い**。



クボタ
小川 和弘さん

水が噴き出している状態で、**時間との勝負**。
そして、安全、正確。先のことを考えながら、
その先を考える。**失敗も許されない**。



大成機工
桂林 淳さん

「街の水道屋」の
維持管理技術は**“輸出”**できる。



全国管工事業協同組合連合会
大澤 規郎さん

“あるから安心”じゃダメ。いざというとき、
役割を果たさないと意味がない。
消火器は**“お守り”**じゃない。



ヤマトプロテック
谷澤 寿男さん

「われわれの仕事は**地図に残る**」
そうした誇りも次の
世代に伝えていきたい。



荏原製作所
大澤 博之さん

どんな現場でも、後戻りせずに、**一発で止める**。
そのために、カラダとアタマを**フル回転**させる。



大成機工
九浦 涉次さん

“水を**人間の敵**にしない”という役割。



荏原製作所
高部 哲男さん

農家が**自然に**
負けちゃダメ。
めげずにやり直そうと**決意**した。



尾島 宏明さん

火山・噴火のメカニズムを正しく知り、
冷静に共存することが大切。
子どもたちに**学ぶことの楽しさ**を。



東京大学名誉教授
荒牧 重雄さん

偶然と失敗の中から生まれた製品たち。災害対策、
求められる機能を追求していたらこうなりました。



進展工業
長谷川 弘さん

作物の**立場**になって、
いい生育環境を
作ってやる**ことが私たちの仕事**。



クローバーズファーム
細谷 滋紀さん



「防災」「安全」。そして、水、住まい、農業のフィールドで。 セディアシステムと共に、これからも。

「すべてはお客様のために」。変わることのない姿勢でさまざまな取り組みを推し進めてきた渡辺パイプ。すべての人がよりよい生活をしていくためになくてはならない「安心・安全」という確かな価値をお届けする想いと行動は「セディアシステム」として、発展しています。新しい豊かさへ、災害に負けないインフラの整備へ、より高い価値を暮らしに、社会に。その追求が流通ネットワークNO.1、渡辺パイプの使命であり誇り、CSRの取り組みだと考えています。これからも確かな価値を全力でお届けします。



ライフライン事業

大切なライフラインを支える仕事こそ、渡辺パイプの原点です。業界NO.1のネットワークと確かな品揃え、スピーディな配送で、土木や電気などすべてのニーズにワンストップで応えるビジネスソリューションをお届けします。



ライフスタイル事業

人々の生活で必ず必要になるキッチンやトイレ、バスルーム、洗面など水まわりを中心とした住設機器や、建築資材を日本全国のリフォーム店様・工務店様にお届けすることで、快適な住空間づくりにも取り組んでいます。



グリーン事業

農業用ハウスはもちろん、農業資材店様や農家様のための、新たな商品やサービスを開発。さらにこれからの新しい農業をサポートするために、さまざまなソリューションやコンサルティングにも取り組んでいます。

会社概要

| | |
|------|---|
| 社名 | 渡辺パイプ株式会社 |
| 本社 | 〒104-0045 東京都中央区築地5-6-10 浜離宮パークサイドプレイス6F |
| 創業 | 1953年12月8日 |
| 代表者 | 代表取締役社長 渡辺 元 |
| 資本金 | 15億3,208万7,700円 |
| 年商 | 2,250億円(グループ売上…2014年3月期予定) |
| 従業員数 | 3,420名(グループ全体…2014年3月末現在) |
| 業務内容 | 【管工機材の販売】 水道機材、衛生器具、給排水金具、配管材料ほか 【住宅設備機器の販売】 空調機器、浄化槽、厨房機器、給湯機器、建材ほか 【電設資材の販売】 電気工事材料、電線、照明器具、家庭電化品ほか 【温室の設計・施工、販売】 各種温室の設計・施工、各種グリーンハウス及び 部品・資材、各種被覆資材、灌水装置、 自動カーテン装置、天窓・側窓開閉装置、冷暖房装置、 温室環境制御装置、養液栽培システムほか |

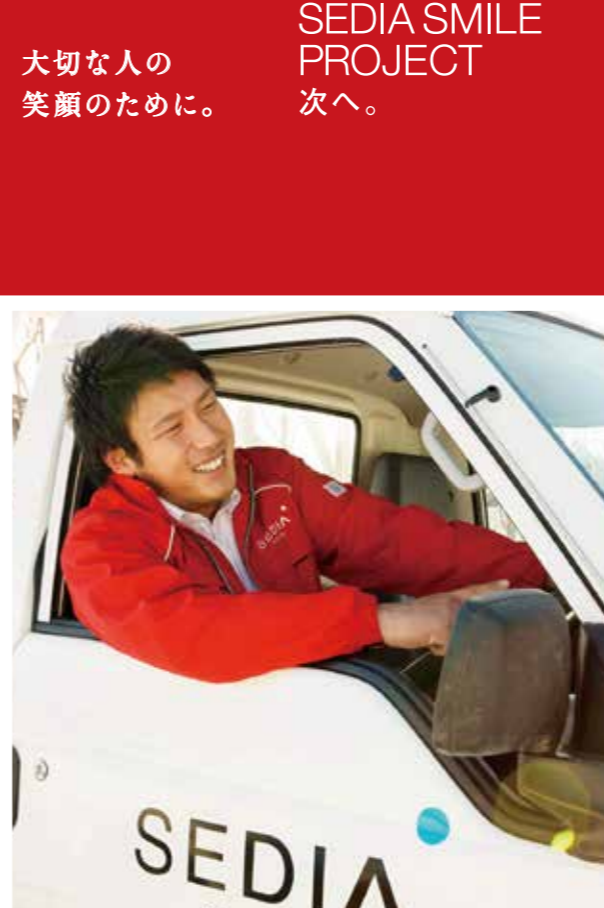
グループ会社

| | |
|------------------|-----------------|
| 渡辺パイプ・西日本株式会社 | 株式会社エドビ |
| 渡辺パイプ・沖縄株式会社 | 協伸株式会社 |
| 株式会社ツギテの三共 | 株式会社トコグリーン |
| キザイ産業株式会社 | 株式会社ナプロ |
| 梅津管材株式会社 | 渡辺パイプベトナム有限公司 |
| 三幸機器株式会社 | |
| 株式会社ケンバン | げんきビジネスサポート株式会社 |
| 昭栄商事株式会社 | 株式会社セディアピーエス |
| 株式会社資材社 | 浅間高原観光開発株式会社 |
| ヤナギ管材株式会社 | NPO法人浅間山麓国際自然学校 |
| 三興電材株式会社 | |
| 平和テクノ株式会社 | 公益財団法人セディア財団 |
| 株式会社WATER WORKS | |
| パイプシステム工業株式会社 | |
| 株式会社ワーク・サポート | |
| 株式会社セディア・トランスポート | |
| 株式会社ききくらぶ | |

本レポートについてのお問い合わせは
経営企画ユニット 広報グループ
TEL: 03-3549-3076 FAX: 03-5565-6374

渡辺パイプCSRアクティブレポート「セディアスマイルブック」は、セディア財団の支援を受けて企画制作しています。





がんばろう、
私たち!

大切な人の
笑顔のために。

Smile
SEDIA ESTABLISHED IN 1991
SEDIA SMILE
PROJECT
次へ。